様式3
令和7年度　香南市認定こども園評価報告書　　香南市立野市東こども園

経営理念	【教育・保育目標】 えがおで　なかよし　ひがしのこ 【経営目標】『乳幼児期の育ちを大切にし、保護者に信頼され、地域に愛されるこども園』をめざす ＜子ども像＞　〇自分のことを自分でしようとする子ども　　〇自分も友達も大切にする子ども　〇人やものに自分から関わろうとする子ども　〇自分の思いを表現しようとする子ども ＜こども園像＞ 〇一人一人の子どもを大切にするこども園　〇基本的な生活習慣を身に付け健康な子どもが育つ園　〇保護者や地域に信頼される園 ＜職員像＞　〇子どもや保護者との信頼関係を大切にする職員　〇互いに認め合い協働する職員　　〇専門性の向上に努める職員

	中期経営目標	重点目標	評価項目	自己評価		こども園関係者評価		改善策等
				況状成達	評価	考察	評価	
保育・教育活動の充実	子どもの発達に即した保育・教育を展開し、豊かな感性が育つ保育実践の実現	乳幼児の発達や学びを踏まえた保育活動を充実させる	① 子どもと共に遊び、一人一人の乳幼児の内面を理解する。	指導計画を基に、子どもの姿や育ち、経験させたいこと・援助等について具体的に考えたり話し合いの場をもったりすることができた。一緒に遊ぶ中で、一人一人を大切に考えその子どもに合った援助を行った。学年・クラスによっては、発達に応じた玩具を作ることはできたが、援助の部分で共有が不十分だった。	B	玩具作りを進めることで、落ち着いて自分のしたい遊びを楽しんでいる。今年から乳児は個別の指導計画を作成し共通理解している。このような取り組みを保護者にも伝えてはどうか。	B	一緒に遊ぶ中で、子どもの興味・関心を探り、子ども理解に努めるとともに、PDCAサイクルで確認し、教育・保育のねらいに沿った保育ができるようにする。共通認識をもって保育ができるように、カリキュラム会や終礼時等を活用し援助も含め共有していく。
			② 子どもが遊ぶ中で、豊かな経験につながる戸外の環境構成	戸外の環境について話し合い、子どもたちがその時期にあった活動が楽しめるように工夫できた。話し合いについてはクラス・学年間が主になり異学年での話し合いが不十分だった。1～3歳児棟の園庭については、広い園庭を柵で区切って危険がないように工夫ができた。環境の再構成は十分できなかった。	B	保護者アンケートとして、最初はうまく交流ができるか不安であったが、遊びや野菜の栽培等通して職員が意識して交流を図ろうと努めている。	B	子どもが楽しんで体を動かして遊ぶことができるように、一人一人の遊びの様子を把握し、遊びが長続きできるように環境を整え保育の充実を図る。園庭環境について翌週の園庭の使い方を職員間で話し合いを行い、子どもが主体的に遊ぶことができる環境を整えていく。
			③ 体を動かす遊びを通して、多様な動きを身に付けられる保育実践	子どもの姿や興味があることを捉え、発達に合った運動遊具を選んだり、設定することで、繰り返しチャレンジしたり、楽しんで体を動かす子どもが増えた。他学年で交流することで興味をもったり、刺激を受けたり、やる気にも繋がっている。遊びが途中で途切れてしまうこともあり、継続して遊びを楽しめるような工夫ができなかった。	A	他学年で交流することで、お互いに興味をもったり、刺激を受けたりしている。また、年齢の低い子どもを大切に観ることもできている。	A	
職員の育成・資質向上や運営	共通課題に向かう職員の協力体制づくり	避難訓練の実践から成果や課題を話し合い改善に努める	① マニュアルを理解し、適切に行動する	園舎が2つに分かれていることで連携の難しさはあるが、訓練の積み重ねで、職員が自分の役割を意識して動こうとするようになった。保護者アンケート「こども園は地震・火災・不審者等危機管理に関する対策を行っている」が81%。こども園になって1年目であり園全体の動きを意識し、自身で考えて行動することが難しかった。	B	園舎が2つに分かれていることで、連携の難しさを感じている様だが、関係機関からの指摘を元に改善していく体制を作ろうとしている。	B	想定に捉われず、職員一人一人が状況を判断し、より適切な行動ができるように職員間で確認していく。また、2つに棟が分かれているため、より職員が臨機応変に行動できるように、実施内容を見直し計画的に行なう。保護者アンケートからも防災意識への関心が高いことが伺えるので、引き続き取り組みを発信し、小学校や関係機関と連携をしていく。
			② 子どもの安全対応能力を高める	保育者が危険な行動を実際に再現したり、約束を確認したりすることで、約束を守って遊ぶ姿が増え、年齢によっては友達に注意喚起もできるようになった。言葉だけでは難しい時にはイラストで危険なことを知らせ、遊具に印を付ける等見てわかる環境を整えることができた。避難訓練では、「おはしも」の約束を繰り返し伝え、その都度振り返りをすることで、保育者の声に耳を傾け、自分で行動しようとする子どもが増えた。	B	乳幼児が約束ごとを守り、自ら安全対応ができる体制ができている。子どももお互いに注意喚起ができるようになっている。	B	遊びや生活の中でルールを確認しながら、自分の判断で危険を回避できる力を身に付けられるようにする。避難訓練では、毎月実施することで“慣れ”に繋がらないように、いろいろなパターンを想定して実践していく。
地域に開かれた園づくり	保護者や地域に信頼される園づくり	保護者や地域に対して積極的に、発信を行い、保育の意図や子どもの育ちを共有する	① ドキュメンテーションやお便りの工夫	ドキュメンテーションで、普段の子どもの様子を写真を多めにして貼り出し、掲示の場所を工夫できた。保護者に子どもの様子を伝えることで、園生活に関心を寄せる保護者が増えてきた。保護者アンケート「子どもさんの園での様子や成長の姿、大切にしていること等をわかりやすく伝えているか」が85%。クラス便りでは、月1回以上発行できたが、子どもの育ちや子どもたちが何を楽しんでいるのか等を十分に伝えることができなかった。	B	保護者アンケート「子どもさんの園での様子や成長の姿、大切にしていること等をわかりやすく伝えているか」が85%。ややそう思うが13%。さらに掲示の工夫をしてほしい。クラス・学年便りをネット配信の導入も視野にいれてはどうか。	B	ドキュメンテーションやお便りを活用し、遊びの中で子どもが何を経験し、どのような学びや育ちにつながっているのか、分かりやすく保護者の目に留まるような工夫をしていく。地域の方や近隣施設の方との関わりを積極的に発信していく。また、近隣施設の方や自然と触れ合う機会を多く取り入れ、機会を逃さず見通しをもって保育に中に取り入れるようにしていく。
			② 施設訪問や散歩の実施	近隣の施設やデイサービスの利用者と交流の機会がもて、保育と違う経験を得ることができた。地域の方を招いての行事や絵本の読み聞かせ等を通して、子どもたちは親しみの気持ちをもち、触れ合うことができた。保護者アンケート「地域の自然に触れたり、地域の方との交流を行なったりする等保育活動に取り組んでいるか」80%の評価を得た。	B	近隣施設との交流（4・5歳児）や絵本の読み聞かせ等が実施ができた。保護者アンケート「地域の自然に触れたり、地域の方との交流を行なったりする等保育活動に取り組んでいるか」80%と良く取り組んでいる。	A	

【評価基準】A：十分満足　B：おおむね満足　C：もう少し努力すべき　D：大いに努力が必要